

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101974		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム曳馬の家 (3ユニット合同)		
所在地	浜松市中区曳馬三丁目12番5号		
自己評価作成日	平成27年8月4日	評価結果市町村受理日	平成27年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouCd=2277101974-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

曳馬の家としては、地域密着でもあり、地域との交流や、ご家族の意見を取り入れた、サービスを提供していきます、又「和み」や掲示板の作成にも各館で特色を出していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅から3分ほどの距離に位置し、窓枠からは走り抜ける電車をまじかに眺めることができます。交通量の多い道路が目前にあるものの背面には旧家が立ち並び、徒歩圏内には桜並木のある川があり、春の散策には欠かせないスポットもあります。銀行、病院、コンビニエンスストア、ドラッグストア、スーパーがひしめく非常に便利な地域の自治会とあって地域連携が活発で、自治会長や民生委員と相互に協力し合っています。特に本年、町と地区の夏祭りにはそれぞれに花火が上がリ、利用者も居室から楽しむことができました。昨年からの始めた園芸ではゴーヤ、茄子、トマトの夏野菜を利用者とともに手入れして見事に実っていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく生活ができるような対応を心掛け、それに沿った支援をしている	唱和はしていませんが「時間を気にせず暮らせる支援」を念頭に毎週勉強会を積み重ねており、管理者も利用者一人ひとりに即した職員の声かけを耳にして浸透を実感できています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元公民館で行われる、行事・消防訓練などに参加している。又中学生の体験学習の受け入れを昨年は3校、今年も3校の予定です	中学3校の福祉体験を受入れ、津軽三味線や踊り、音楽ボランティアと頻回な訪問があり、人の往来に賑わいがあります。地域の一員であろうと努め、最近では逃げ出したペットを確保し、飲ばれた例もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて家族や地域の人々に理解して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の状況や施設での取り組みなどを報告し、話し合いを行い、貴重な意見をいただいている	家族に参加しやすい日をアンケートで確認して毎回3名の顔合わせを得ています。「和(たより)」を見てもらったり、自治会長からは行事案内、民生委員の活動報告を受け、双方の情報が行き交っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、毎回のようにな中区の職員、地域包括センターの担当者の方、自治会長、民生児童委員さんから意見をいただいている	地域包括支援センターからは運営推進会議を通じて時節に連なる事故や病気について都度説明をもらえていて、現在は透析利用者へのアドバイスがもらえ、助けられています。	行政からは「地域行事に出向きにくい人の楽しみを検討して欲しい」と投げかけられていることのことですので、ぜひ早期の推進を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が研修をうけ禁止の対象となる行為身体拘束をしないケアに取り組んでいる、身体拘束マニュアルを見えるところに貼ってある	過去に2名のエスケープがあり、無事保護されたものの職員の心的負担と安全確保を考慮しての玄関施錠が不定期にあります。「出たいときにいつでも出られる」を方針としていますが、帰宅願望の症状が出る前に草むしりや散歩で緩和させる工夫もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を常に念頭に置いて介護に当たっている、職員会議では伝達・確認を怠らない様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その様な制度の勉強はしているが、現在は必要とする対象者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、十分な理解を得てから入居契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度は来設して頂けるようにし、近況を報告すると共にご意見を頂いている、運営推進会議や職員会議で取り上げることもある	月に1回は会話がもてることから、具体的なお願いが家族から届いています。例えば、書道師範で教え好きの性向をもつ利用者は「交流をさせて欲しい」との家族の声に準じて習字の時間に先生となって活躍しています。	管理者の交替が予定されているとのことですので、利用者や家族の不安が生じないように、新管理者は積極的に家族へ働きかけることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミニカンファレンスを行い意見交換している、ノートにも記入して伝達ミスのないようにしている、毎週水曜日を勉強会にしている	管理者と職員の距離が近く日頃から何でも言い合っていますが、午後のミニカンファレンスでもケア以外の提言があります。全体会議で多人数となっても物怖じすることなく意見がでていて風通しのよい職場環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には耳を傾け働きやすい職場環境となるように心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が色々あり、又希望者には講演・研修などにも参加しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は有りませんでした、交換研修が有り他の施設の勉強をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族より状況を聞いているが、本人に理解し納得して頂けるように事前に見学をして頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族より、話を良く聞き、不安なく入居できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まれば、家族の意見や、関係者からの情報に基づき、アセスメントをしっかり行い、ケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不足している部分をそっと補う型の介護を心掛け、穏やかに日常を過ごせる様になっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族のような共同生活をしている、という気持ちを持って支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、知人などの面会が出来るようにしている	書道に励む人、裁縫(ミシン)を嗜む人、定期購読の新聞を毎日読む人、飲酒が習慣の人はノンアルコールビールと、個々の馴染みのものが続くよう支援しています。また家族が食事に連れ出してくれる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理のない形でレクリエーションや憩の場に誘い顔なじみの関係を築けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を受けた時は受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者との会話や行動などで意向の把握に努めている	其々に好みの職員がいて、この人には話してくれるということで意向把握が叶い、お気に入りの職員とは話し込む光景が頻繁にみられます。「ご飯は硬くして」「珈琲が飲みたい」といった要望は経過記録で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、入居前のサービス計画書等で把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりに介護記録や経過記録を残しカンファレンスにおいて意見交換をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変化や状態に即した介護計画を、ご本人や御家族を交えて作成している	経過記録、介護記録、申し送りノート、連絡簿(家族への連絡ノート)を資料にし、ケアプランに反映させています。入所直後は1ヶ月お試し期間を設けて状況を鑑みつつ、個々にあったプランを練り直しています。	家族アンケートでは数名ですが担当者会議に参画できていない、または参加を意識していないことが推量されますので、是正を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個々の経過記録等に記録し、カンファレンス等で話し合いモニタリングやケアプランに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活ではあるが、個々のサービスを主に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等の際に地元のボランティアの協力を頂き、演芸などの催しを披露して頂き楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は本人の状況や家族の希望を主治医に伝え適切な治療をうけている	週に2回訪問の看護師に健康面を相談でき、また向かいにある病院が協力医で緊急の場合は救急病院を利用しています。3割弱はかかりつけ医を継続して、受診には記録を複写して家族に渡し報告も得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回来設し健康管理を行っている、看護師の判断や考えをかかりつけ医に報告し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるように情報提供を取り合っている、入院中や退院に向けての支援等は家族や病院と頻りに連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の時にグループホームでの出来る事を説明して家族等に理解して頂いている	契約時には勿論のこと、その後も心身の状態変化があった都度家族とは面談し、また「いつもと違う様子」がみられたら、医師の指示を仰いで家族と協議しています。「看取りは視野に入れ、(要望があれば)おこなうもの」と考えていて、職員の大半が経験者です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握してそれに沿って対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や地域の訓練に参加している又水害マニュアルの勉強もしている	防災訓練は年間2回のうち1回は夜間想定でおこない、地域の防災訓練には職員が出向いています。法人災害レスキュー隊も心強く、また事業所内でも毎月5のつく日は自主点検の日として見直し確認を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉掛けが乱れないように、A-A課程等で接遇の勉強をしている	管理者は言葉遣いを注意することは押さえ、優れた話し方や声がけをしている職員を褒めて育てるようにしています。職員研修で何度も繰り返し尊厳の維持を伝えていて、居室に入るときの声かけは定着しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話を大切にし傾聴に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりが穏やかな気持ちでその日を過ごせる様に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は出張理美容師にカットだけでなく毛染めをしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者は自主的にお手伝いをして頂いている、食事前の楽しい雰囲気大切にしている	給食センターから半製品が入ってきているため利用者の好みに仕上げるために合議し、月に1度の行事食にはおはぎ、紅白饅頭などが提供されています。畑から収穫した野菜のある日は1品増え、季節を味わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を付け、1人ひとりに合った量や加工で提供する様にしている、水分不足にならない様に毎日汁物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない人は、職員が声掛け介助して清潔保持していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレの声掛け誘導している、入居者からの仕草からも察知する様にしている	概ね見守りですが、介助が必要な人には表情や仕草で判断し、「こちらにどうぞ」「ちょっと来てくれませんか？」と間接的に誘っています。居室に臭いがあればほかに移ってもらい、急ぎ片づけ羞恥心に留意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給をうながしている、便秘気味の方は、排便チェック表を記入し、主治医との連携で内服薬等の介助を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は水曜・日曜以外にしている、希望者は出来るだけ多くの入浴をしています	各階の壁や浴槽、タイルの色合いが違い気分が変わります。月に3回、法人所有の温泉地から湯が運ばれ、温泉気分で「毎日入る」という人もいます。大きな湯船は親しい人同士2～3名で浸かることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状態に応じて休息を取っていたい、又安眠出来るように寝具や空調にも心くばりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については、薬管理表に記録し、内容を把握する様にしている、内服薬は手渡し、飲み込み確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事が継続していかれるよう、家族に協力して頂く事もあります、1人ひとりが自分なりの気分転換を図れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物に出かけています、家族と外食やドライブを楽しまれている入居者さんもいます	天候がよければ散歩もしますが、主には月に4回程度買い物やドライブを兼ねて出かけています。本年は正月の初詣に小国神社へ、また4月のお花見は近隣の堤防、6月には浜名湖へとミニ遠足を愉しめています。	現在のワゴン車は車いす対応でないため同行できない人もいて不平等かと思われ、また散歩も気分対応のため記録をとって身体状態による偏りがでないよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、1号館では家族の承諾がないですが、買い物は職員と一緒にしていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用は、家族の了解のもとで、電話をさされてる方や、手紙のやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかな装飾はさけて、入居者様のお手伝いを得て季節感を味わって頂けるようにしている	動線に物品がなくリスクマネジメントへの配慮が感じられます。各ユニットで壁面が異なり、1F貼り絵、2F折り紙作品、3Fは掲示が特にありません。利用者のADL状態を反映しているのか、1Fは元気がよく笑い声も聞こえ、2Fは車いすが目立ち、3Fは静かでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思いおもいに居室とリビングを自由に行き来してもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や、馴染みのある物を居室に置かれる事をお勧めしている	個性満載という居室もあれば物がなく整然とした部屋もあり人それぞれで、本人というより家族の関わりの違いといった印象が残ります。雑巾をはじめ何かとミシンを踏んでくださる利用者が男性と聞き、驚きました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりとうも取り付けられている、1人ひとりがなるべく自力でかつ安全に生活できる環境になっている		